



第16号 おひさま通信

2020年4月

NPO法人おひさま生活塾



ごあいさつ



理事長 花岡 泉

今年は、2月中頃から新型コロナウイルスが流行し、学校の休校や公共施設の休館が重なり、子どもたちの居場所が狭められています。さらに、新年度の変化の激しい時期になり、親子で気持ちの落ち着かない日々が続いていると思います。皆様のご家庭ではどのようにお過ごしでしょうか。

さて、“おひさま”では、長年にわたり開催していた「サンデークラブ」と「川上おひさまクラブ」が令和1年度をもちまして終了いたしました。毎回、楽しみに参加して下さるお子さんもあり、親御さんからも惜しむ声がきかれました。しかし、近年、多様なサービス事業所が増えたこともあり、おひさま生活塾の一応の役割も果たせたかと思っております。ここまで子ども達の余暇活動を継続できたのも実行委員の方や地域の方、学生ボランティアの方々のおかげと感謝しております。

しかし、一方で、これからおひさま生活塾に求められる役目はまだまだあるようです。現在、「わくわくクラブ」や「ゆうゆうクラブ」に参加する子ども達が徐々に増えています。学習や友達との関りに難しさを感じたり、将来への不安や進路に迷う子ども達への支えを提供できる場がもっと必要なようです。また、保護者の方には、相談相手や心のゆとりを得られる場所として「にこにこカフェ」も大切な場所になっているようです。これからもみなさんのお力添えをいただき、おひさま生活塾を盛り立ててもらえると嬉しく思います。



ゆうゆうクラブ



支援ボランティア なぎ 道子

「寺子屋ほわりん」でMちゃんと遊び始めて2年近くになります。ほわりんに着くと、Mちゃんが、座布団とお茶を出してくれます。それからトラップがスタート。みごとな手さばきでトラップをきってくれます。負けまいと毎回私は必死で頑張るけど、神経衰弱では、ほとんど負けてしまいます。お料理が大好きで、一緒にお弁当・焼きそば・すし太郎でちらし寿司・お団子作りなどしました。包丁もとても上手に使います。

楽しい・おいしい時間でした。生け花もしました。庭の好きな花を自分で切ってきたので教えようとかまえました。水切りを教えただけでスイスイきれいに生けました。色彩感覚と構成力にすぐれ、絵を書くこと・貼り絵をすることも大好きで、いつの間にか私は黙々とやっている彼女の世界にひきずりこまれています。





わくわく学習支援



ボランティア 内藤 恵子

ホッと一息つきたい。少しの間、自分のペースでゆっくりしたい。誰かとお喋りしたい。誰にもこんな思いがあるはず。四月からわくわくクラブの活動にわり、私自身もこのような時間を過ごしました。個別に学習できるのも、お互いに何か温かい気持ちになりました。表情を見ながらも「納得していそうだな。ここは難しそうだな。」など、察することができます。普通のことを大切に感じられる。それが、おひさま生活塾での時間だと思いました。



絵画教室



障害や学年を問わず、いろいろな子どもたちの集まりで楽しむことができる教室です。思いがけないような発想があり、いつも驚かされています。

利用者児童

絵画教室では、何をするか分からない時があるので、今日は何を作るのかなあとわくわくしていました。家にはない画板や電動ノコギリを使って絵を描いたり工作をしたりしました。おかげで図工が大好きになりました。



松ぼっくりのねずみ



手作り会(にこにこカフェ)



「来月は何を作ろうか」と会員のお母さんたちとワクワクしながら作品を考え、作成しています。いろいろな悩みや愚痴をみんなに聞いてもらったり、黙々と作品作りをする月もあれば、おしゃべりに花が咲き、「また、来月ね」となごり惜しく次回を楽しみにする時もあります。昨年度も作った作品は「在宅障害児者と家族を支援する会」の学習会や公開講座・ANA「虹の架け橋プロジェクト」で販売しました。売上金はわずかではありますが、おひさま生活塾の活動費となっています。月1回の集まりですが、どうぞお誘い合わせの上御参加ください。



ANA クラウン会場にて



サンデークラブ



令和1年度の活動を終えて

藤井 雅子

今年度もボランティアさんに支えてもらいながら、季節を感じてもらえる工作や年2回のコンサートはタンバリン等の楽器を作ったり、音楽に合わせて体を動かしたりと達八さんやヨリちゃんと楽しみました。

サンデークラブは令和一年度で活動が最後になります。サンデークラブの前身は「あしたの会」という週休2日制でお休みに行くところがなく、親子参加で活動してきましたが、「NPO おひさま生活塾」が立ち上がるというのを聞いてお仲間に入れてもらいました。「あしたの会」から入ると17年と長い期間の活動が出来たのも、学生ボランティア・一般ボランティアさんに助けてもらったからです。一般のボランティアさんの中には、先生や障害の子ども達を見てきたナースの方もいて、親も相談にのってもらいました。コンサートに来てもらっていたお2人は、初めから来て下さっていて子ども達の成長を一緒に見守ってもらいました。最後になりますが、ボランティアさん・当番・実行委員として一緒に活動してもらったお母さんに感謝です。お世話になりありがとうございました。



長い夏休みの間、障害児たちが社会と安全に接する機会が乏しい、お母さんたちは子どもを置いて外出することもできず、家にこもりきりで疲れ果てている、何とか子どもたちの居場所と親御さんのレスパイトの時間を作らなければ…ということでスタートした「おひさまクラブ」。まず、宇部養護学校(現在の宇部総合支援学校)で始まり、もっと受け皿が欲しいということで新たな拠点を川上小学校に作りました。あれから15年、川上おひさまクラブは、久保田后子市長(当時・県議)の呼びかけより、地域の婦人部役員、在住の福祉施設スタッフや医療関係者、教職員、消防署員たち有志が軸になって実行委員会を組織し、多種多様な療育プログラム担当者、そして子どもたちに付き添って一緒に遊んで下さる高校生さんたちなど、多くのボランティアさんたちにご参画頂いて続いてきました。

午前中はプール、午後は日替わりで音楽や、工作や絵画創作、お料理、ダンス、手品、バス乗り方教室等の療育プログラム。子どもたちの単なる見守りで時間がすぎてゆくことの多い一般の日中一時支援事業所とは異なり、おひさまクラブには、その日その日を楽しみに参加して下さるお子さんや親御さんたちが数多くおられました。日常ではなかなか体験することのない活動の数々、その中でのコミュニケーションの苦手な子どもたちにとっての家族以外の人たちとの交流は何ものにも代えがたい貴重な体験だったことと思います。また、おひさまクラブの活動を通して、ボランティアとして参加して下さった方々(特に高校生のような若い世代)が障害に対する理解を深められたことには大きな意味があったと自負しております。しかし、この15年の間、多くの親御さんが、時間的に融通の利く日中一時支援事業所を選ばれるようになりました。10年前には26名の参加登録があった川上おひさまクラブが、昨年の夏はたった6名となりました。早朝、親御さんの出勤時間に合わせた療育開始や、就業時間を終えてのお迎え時間までの拘束は望むべくもなく、そろそろ私たちの活動は終わりに来たのかなあと、ここ数年は開始の準備に入る前に必ず役員の間でそのことが話題になりました。

そうは言ってもおひさまクラブを楽しみに参加して下さるお子さんや親御さんたちの存在は嬉しいもの、私自身、この15年間、夏の定例行事として地域の方と時間を割いてきたこともあり、ここでやめてしまっているのだろうかかと自問自答する日々が続きました。が、私も次世代にバトンタッチする時が来たことを実感し、気持ちの整理がつかしました。

これまで川上校区の皆さんをはじめ、午前中のプールの見守りに来て下さった消防署員の皆さん、午後の療育プログラムを担当して子どもたちに様々な楽しい時間を作って下さった皆さん、そして何よりもおひさまの子どもたちやその兄弟児に付き添って目いっぱい一緒に遊んで下さったボランティアの皆さん、本当にどうもありがとうございました。





2019年度 活動報告



2019年4月
～2020年3月

ゆうゆうクラブ

開催場所: 寺子屋ほわ♡りん

毎週土曜日

わくわくクラブ

開催場所: 寺子屋ほわ♡りん(松崎町3-6)

毎週火・水・木曜日開催

にここカフェ (月2回)



行事

「おひさま生活塾」 総会

サンデークラブ

開催場所: 宇部総合支援学校 (月1回)

おひさまクラブ

開催場所: 宇部市立川上小学校 (5日間)

公開講座(宇部市障害者福祉推進事業 補助事業)

2019年 11/30・12/1



その他

- ・ 発達障害児を支えるネットワーク協議会 (年間8回)
- ・ 発達障害啓発週間「ときわウォーク」への参加
- ・ ANA「虹の架け橋プロジェクト」参加

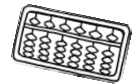


2019年度 決算収支



収入 1,402,122 円

支出 1,431,396 円



【寄付】

個人寄付

18,500 円

立正佼成会

150,000 円

みなさま、ありがとうございました。

編集後記

「寺子屋ほわ♡りん」で、学び、遊び、創作活動を楽しむ子ども達の姿に、援助者自身が日々、新しい発見をし、励まされています。子ども達の成長は、机上の勉強だけが学びではありません。忘れていけないのは、未来の生活の基礎は、日々の生活の積み重ねであり、自分なりの生活を楽しむ技術を学ぶことから始まるということです。現代社会には不安要素がたくさんあります。しかし、日々の子ども達の姿を見ると、それぞれにちゃんと生きる力を持ち合わせていると信じられます。私たちの活動が、子ども達の生き活きとした笑顔を生み出すものになるように、大人も夢を持って活動していきたいものです。

おひさま生活塾ホーム(<http://ohisama-seikatu-jyuku.jimdo.com/>)

